

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策の効果による円安や株価上昇が進み、輸出環境の改善や個人消費の回復により企業収益に持ち直しの動きが見られるなど、景気は回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社は新機種の拡販、新たなマーケットの開拓、海外販売体制の強化に取り組んでまいりました。

当第3四半期累計期間における売上高につきましては、大型包装ラインの販売実績が大きく寄与したことから、前年同期に対し233百万円増収の3,385百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

利益面につきましては、増収に伴う売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費を前年同期より抑制した結果、営業利益は165百万円(前年同期比1,181.3%増)、経常利益は168百万円(前年同期比475.9%増)、四半期純利益は116百万円(前年同期比433.2%増)と前年同期と比べ大幅な増益となりました。

当社は、自動包装機械製造事業の単一セグメントであります。単一セグメントを品目別に分類した場合における品目別売上高の概況は次のとおりであります。

給袋自動包装機は、販売台数が減少したことから、売上高は1,203百万円(前年同期比36.5%減)となりました。

製袋自動包装機は、販売台数が増加したことから、売上高は423百万円(前年同期比154.8%増)となりました。

包装関連機器等は、大型包装ラインの販売実績が増加したことから、売上高は1,065百万円(前年同期比186.7%増)となりました。

保守消耗部品その他につきましては、保守案件の実績が減少したことから、売上高は693百万円(前年同期比3.8%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は4,233百万円となり、前事業年度末に比べて475百万円増加いたしました。この主たる要因は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が166百万円増加したこと、現金及び預金が137百万円増加したこと等によります。

固定資産につきましては、当第3四半期会計期間末残高は925百万円となり、前事業年度末に比べて21百万円増加いたしました。この主たる要因は、無形固定資産が27百万円増加したこと等によります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ497百万円増加し、5,158百万円となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は2,138百万円となり、前事業年度末に比べて435百万円増加いたしました。この主たる要因は、前受金が265百万円増加したこと、仕入債務が185百万円増加したこと等によります。

固定負債につきましては、当第3四半期会計期間末残高は97百万円となり、前事業年度末に比べて5百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ441百万円増加し、2,236百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高につきましては、利益剰余金の増加等により、前事業年度末に比べ55百万円増加し、2,922百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発費の総額は148百万円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。